

梅若研能会



【翁】三世 梅若万三郎（前島写真店）

令和9年1月11日（月・祝）午後1時始（開場12時）
於 国立能楽堂
National Noh Theater 4-18-1, Sendagaya, Shibuya-ku, Tokyo
Monday holiday 11 January 2027 Start 13:00 (door open 12:00)

文化庁
文化庁文化芸術振興費補助金
（舞台芸術等総合支援事業（公演創造活動））
独立行政法人日本芸術文化振興会

国立能楽堂

東京都渋谷区千駄ヶ谷4-18-1

☎ 03 (3423) 1331

- JR千駄ヶ谷駅 徒歩5分
- 大江戸線・国立競技場駅 徒歩5分
- 副都心線・北参道駅 徒歩7分



入場料（全席指定）

指定席 A 8,000 円

指定席 B 6,000 円

指定席 C 4,000 円

指定席 GB 5,000 円

※学生席（要学生証）各席 3,000 円引き

お問い合わせ・お申し込み

e+（イープラス）<https://eplus.jp/ath/word/69495>

カンフェティ TEL0120(240)540（平日10:00-18:00）

<http://www.confetti-web.com/umeken>

主催 公益財団法人 梅若研能会

〒151-0066 渋谷区西原1-4-2 TEL 03(3466)3041

《メールアドレス》staff@umewakakennohkai.com

《ホームページ》<http://www.umewakakennohkai.com>

YouTube 演目の見どころ解説動画を公開中！

f フェイスブックはじめました！公演情報更新中！

「翁」、能「玄象」みどころ講座

12月26日 13:30～15:00

於・梅若万三郎家能舞台（渋谷区西原1-4-2）

受講料 1,000 円（※研能会入場券購入者は無料）

講師 「翁」梅若 紀長（うめわか のりなが）

「玄象」梅若 泰志（うめわか やすし）

四月公演のご案内

令和9年4月11日（日）於・国立能楽堂

能【清経】シテ 八田 達弥 ツレ 加野 鉄音

能【山姥】シテ 梅若 志長 ツレ 萩原 郁也

舞囃子【紅葉狩】中村 裕 狂言1番



能 清経

シテ 八田 達弥



能 山姥

シテ 梅若 志長



写真上【清経】、下【山姥】三世 梅若万三郎（前島写真店）

梅若研能会 二月例会

令和九年一月十一日(月・祝)午後一時始(十二時開場) 於 国立能楽堂

(二時)

翁



翁 梅若 紀長
千歳 萩原 郁也
三番叟 飯田 豪
面箱 石田 淡朗

笛 松田 弘之
頭取 大倉源次郎
脇鼓 飯富 孔明
脇鼓 長尾 樹
大鼓 安福 光雄

後見 加藤 眞悟 梅若 志長
狂言後見 深田 博治 高野 和憲

地謡
加野 鉄音
八田 達弥
伊藤 嘉章
遠田 修
中村 政裕



【翁】三世 梅若万三郎 (前島写真店)

(二時十分頃)

狂言 松 樫

シテ (撰津の百姓) 野村 万作
アド (丹波の百姓) 中村 修一
小アド (奏者) 野村 裕基
後見 岡 聡史

笛 松田 弘之
小鼓 清水 和音
大鼓 安福 光雄



【松樫】野村万作 (撮影・政川順治)

休憩 二十分

難 波

仕舞

吉野天人

梅若 志長
梅若万佐志

地謡
梅若 紀佳
遠田 修
中村 裕
古室 知也

(三時二十分頃)

能 玄 象

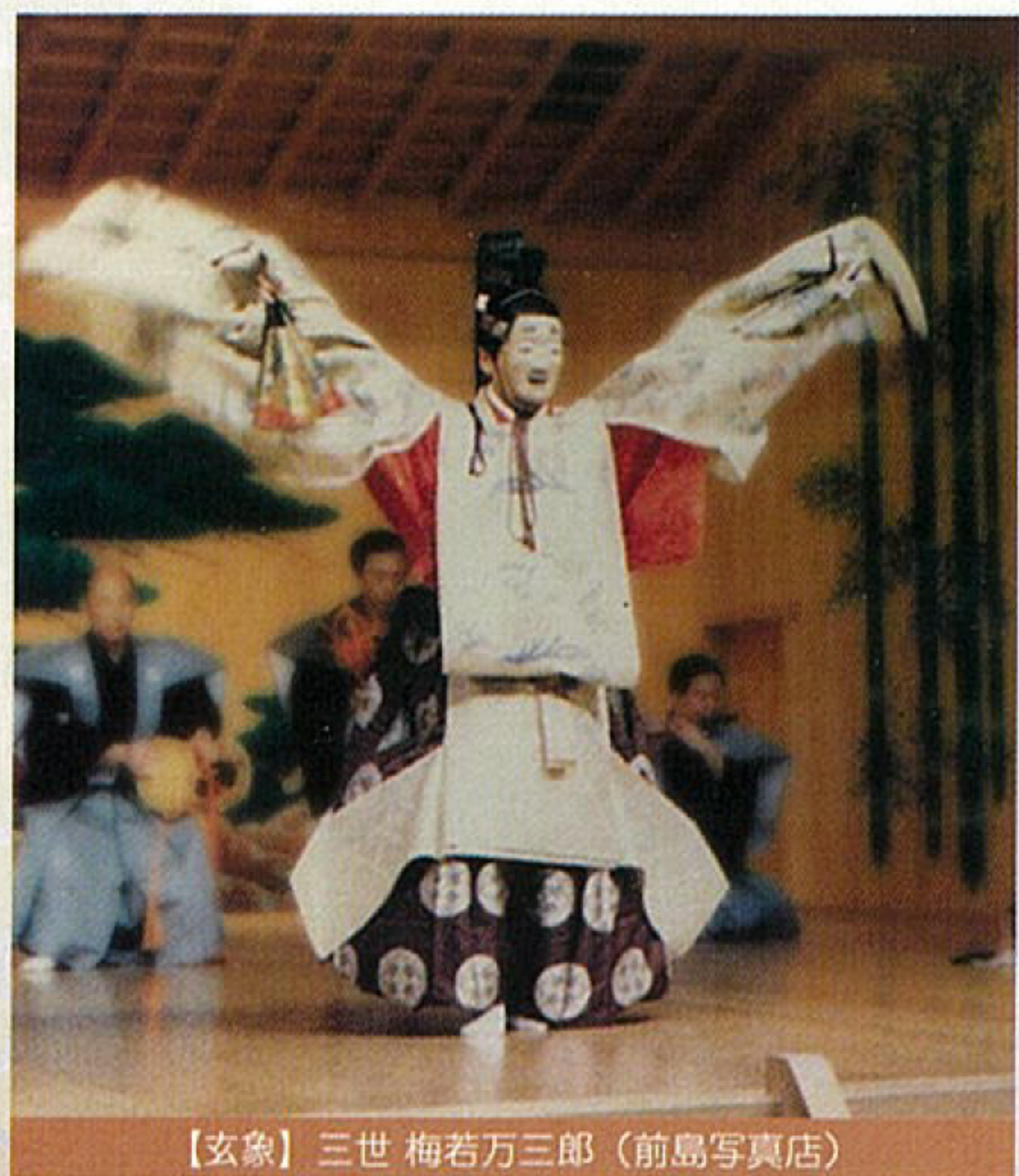


前シテ (尉) 梅若 泰志
後シテ (村上天皇) 長谷川晴彦
ツレ (藤原師長) 青木 健一
前ツレ (姥) 加野 鉄音
後ツレ (龍神) 大日方 寛
ワキ (従者) 御厨 誠吾
ワキツレ (従者) 渡部 葵
アイ (師長ノ下人) 内藤 連

笛 藤田 貴寛
小鼓 曾和伊喜夫
大鼓 佃 良太郎
太鼓 梶谷 英樹

後見 中村 裕 梅若 紀佳
梅若 紀長

地謡
梅若千音世 八田 達弥
中村 政裕 伊藤 嘉章
梅若 志長 青木 一郎
古室 知也 加藤 眞悟



【玄象】三世 梅若万三郎 (前島写真店)

(終演予定 四時五十分頃)

翁 (おきな)

神官役の翁大夫が祝福を述べ、千歳による露払いの舞のあと、舞台上で白式尉の面をかけ神となった大夫が天下泰平・寿命長遠を祈禱する莊重な舞を舞う。続いて狂言方の勤める三番叟による《揉之段》、面箱の願いで黒式尉の面をかけた黒い翁神の《鈴之段》が舞われ五穀豊穡を祈念する。演者全員が御神酒、米、塩で身を清め火打石で切り火を受けて舞台にのぞむ、小鼓が三調出演することなど、常の能とは異なる様式、格式、神事性を持つ。

狂言 松樫 (まつゆずりは)

丹波の国の百姓が松を、撰津の国の百姓が樫を年貢として納める道中で道連れとなる。無事に年貢を納めた二人は奏者(取り次ぎの役人)の命令で、産物にちなんだ歌を詠み褒美をもらい、喜び帰って行く。新春を言祝ぐのに相応しい演目。

仕舞 難波 (なにわ)

かつて難波の都で民に慈愛を施した仁徳天皇。その即位に貢献した王仁が現れ、舞を舞い治まる御世を祝福する。

仕舞 吉野天人 (よしのてんにん)

天武天皇が行幸の折に天女が天降ったと言われる吉野山。都人の前に現れた天女は桜咲き誇る吉野の山で春風に袖をひるがえす。

能 玄象 (げんじょう)

渡唐の為、須磨に來た藤原師長(ツレ)の一行は、出会った老夫婦に宿を借りる。名人・師長の琵琶の音を樂しむ為に塩屋の屋根に苦を敷いて雨音をやわらげる行為に感心した師長が、演奏を頼むと老人(前シテ)は琵琶、姥(前ツレ)は琴で越天楽を合奏する。自分の力量を遥かに凌ぐ神業に恥じ入る師長……。老夫婦は村上天皇と梨壺女御の化身で、入唐を止めるために現れた、と明かし姿を消す。やがて現れた村上天皇(後シテ)は、龍神(後ツレ)に命じて龍宮より取り寄せた琵琶の名器・獅子丸を師長に下賜し、自らも秘曲を奏で舞を舞い、師長は名器を携え都に帰って行くのだった。